



江戸東京野菜栽培記録 ～内藤かぼちゃ編～



平成28年3月30日



体育館付近の土を、長さ3m、幅1m、深さ20cmほど掘り返しました。コンクリートなどの大きな瓦礫を取り除き、畑の土と黒土3袋を入れてよく混ぜ込みました。

平成28年3月31日



種は、江戸東京・伝統野菜研究会の大竹さんよりいただきました。栽培をしている農家の方によると、日照時間の関係で雄花と雌花が咲くタイミングがずれて受粉ができないことがあるそうなので、数日ずつずらして種をまきました。土は「種まき用土」の下に「培養土」を半分入れてあります。土をよく湿らせて、種のとがった方を下向きにして植えました。



平成28年4月11日



平成28年4月12日



1つのポットに3粒ずつ、5回に分けて種をまきました。1週間ほどで芽が出てきて、10日ほどで3~4cmに生長しました。かぼちゃの双葉はとても肉厚で、表面に細かい毛が生えていました。

平成28年4月18日



平成28年4月25日



最初にまいたものが大きくなってきたので、日当たりのいい場所に移しました。1週間後、双葉はさらに生長し、本葉が出てきました。

平成28年4月25日



平成28年5月2日



15個の種のうち7本の芽が出ました。最初にまいたかぼちゃは本葉が大きくなってきたので、畑に定植しました。

平成28年5月6日



平成28年5月16日



本葉が2~3枚出てきました。苗が小さいうちは、ウリバエという害虫に食べられたり、風の被害を受けたりするので、袋を被せてあんどんを作りました。

平成28年5月27日



葉は大人の手よりも大きくなり、脇芽も出てきました。表面には細かい毛が生えていて、白い模様があります。小さな種から芽が出たとは思えないほど、生命力が強いです。

平成28年6月1日



平成28年6月15日



ぐんぐん生長して、葉が生い茂ってきました。花がいくつもついています。かぼちゃは親づるについた脇芽（子づる）に実がなるので、親づるは本葉5~6枚のところまで切りました。こうすることで、花や実の栄養をまわします。

平成28年6月15日



花がたくさん咲いています。花の下にふくらみ（子房）がある方が雌花（写真左），ない方が雄花（写真右）です。数は、雌花よりも雄花の方が圧倒的に多いです。驚くことに、かぼちゃが受粉できるタイミングは開花後わずか数時間しかないそうです。確実に実をつけるためには人工授粉をした方がいいのですが、畑には昆虫がたくさんいるので、自然に任せてしばらく様子を見ることにします。

平成28年7月5日



畑には昆虫がたくさんいるものの、受粉できずにしぼんでしまった雌花がいくつかありました。受粉に失敗したものは、花が落ちて子房がしわしわにしぼんでいます。（写真左）翌日咲きそうな雌花を見つけたので、朝のうちに人工授粉に挑戦します。（写真右）

平成28年7月6日



雌花が咲きました。その日に咲いた雄花の花びらを取り、花粉をめしべにつけます。雨が降ると花粉が流れてしまうため、人工授粉は晴れた日の朝にしかできません。この日は3つほど受粉をしました。

平成28年7月7日



平成28年7月11日



人工授粉をしたものには、目印のテープを貼って受粉日を書きました。収穫日の参考にするためです。
5日後、子房は大きくなりないうちで落ちてしまいました。受粉失敗のようです。

平成28年7月14日



受粉に成功したものは、実がどんどん膨らんできました。受粉後一週間で、大人の拳よりも大きくなりました。実が直接土に触れると、虫がつきやすくなったり腐ったりする原因になります。それを防ぐために、実の下にプラスチックのカップを置いて受け皿にしています。（写真右）

平成28年7月19日



皮がつやつやして、かぼちゃらしい見た目になってきました。（写真左）
新たに受粉した実が、大きくなっていました。（写真右）